

事業完了報告書

事業名	永山地域医療専門家連携事業
事業実施期間	平成 29 年 2 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
事業内容	<p>1 実施事業の概要</p> <p>健康づくり，健康維持・増進は，人が生活していく上での重要な基盤の一つで，それをいかに進めて行くかということは，全ての地域において，とても大きな課題である。生活習慣病予防の取組は相前から行われ続けており，また昨今は，高齢化社会に伴う認知症ケアの取組や，子どもの貧困に関する取組，栄養学的アプローチなど，健康に関わる分野は裾野が広いことから，単一の分野だけではなく，関連分野が連携して取り組んでいる。</p> <p>永山地域は人口約 4 万 4 千人（平成 28 年現在）を有する，市内でも大きな地域で，医療機関が多く，広範囲な分野の医療専門家が多数存在する。日頃の診療の中で一人の患者に注目すると，永山地域の中だけでも多数の医療機関に受診歴があることが多い。であれば，永山という地域における医療機関の連携が，こうした永山地域住民の健康づくりへの第一歩であり，仮にこの連携を永山地域メディカルネットワークと称するならば，このネットワークの人材資源を上手く活用して，同じ疾患に関していくつかの関連科がまとまって永山地域住民（最も多い受診患者様であると思われる）に向けて講演会等の形で情報発信する事が出来れば，ここ永山全体の地域住民健康づくり活動に寄与出来るのではないかという発想が，永山地域医療機関連携による包括的地域健康づくり及び情報発信活動（永山地域メディカルネットワークの設立）という提案に繋がった。</p> <p>平成 28 年度は，補助金申請自体は 2 月になったものの，構想，準備は 1 2 月頃から手がけた。まず，企画していく永山地域の医療専門家グループの連絡体制づくりのための事業趣意書作成に始まり，この取組が地域や関係諸団体の理解と協力を得て，長く続いていくための体制づくりとして，医療専門家以外に，市民委員会，包括支援センター，永山ケアネットワーク，市保健所にも呼びかけて，関係者会議を行った。2 月からは，域内医療専門家（医療機関）への訪問趣旨説明活動を開始し，3 月末までに，おおよそのところには，趣旨説明を終えることができ，ほとんどの医療機関から協力の了解を得ることができた。また，地域に受け入れられた取組になっていくために，地域啓発（啓発紙の発行，永山全域の町内会単位に配布回覧）を実施した。急速な活動展開であったが，協力を得て，おおむね予定の活動を行えた。</p> <p>2 実施団体</p> <p>永山まちづくり推進協議会（まち協）委員，市民委員会，包括支援センター，永山ケアネットワークからなる 18 名体制の「永山地域医療専門家連携実行委員会」を設置し事業を実施している。</p> <p>3 主な活動状況</p> <p>(1) 打合せの実施（補助金交付決定日以降分）</p> <p>平成 29 年 2 月 16 日 医療機関訪問説明スケジュール確認等</p> <p>平成 29 年 3 月 23 日 次年度事業の予定等</p> <p>なお，関係者会議は平成 29 年 1 月 26 日に開催している。</p>

<p>事業内容</p>	<p>(2) 医療機関への訪問趣旨説明 平成 29 年 2 月～3 月にかけて、永山管内医療機関への訪問趣旨説明活動、及び、F A Xによる事業趣旨説明を実施した。 ※時間の制約上、28 年度に訪問説明ができていない医療機関については、29 年度も継続する。</p> <p>(3) 地域内啓発紙の作成 永山ケアネットワークの協力を得て、啓発紙を作成した（2 月下旬～3 月上旬）。</p> <p>(4) 地域への健康啓発 地域の理解・賛同を得て、永く続く取組として発展していけるため、永山全域に対して啓発紙を発行した（3 月中旬）。</p> <p>(5) メディアへの取材対応 複数医師による講演会スタイルは珍しいことから、本事業に対して、メディアあさひかわから取材申し込みがあり、3 月発行号に記事が掲載となった。</p>
<p>実施結果及び効果</p>	<p>健康は、全ての活動のベースであり、高齢化社会が進む中、健康づくり・維持はたいへん重要なことになってきている。平成 28 年度は、今後の具体的取組のための体制づくりや、地域へのお知らせ（啓発）などを実施するとともに、この短期間の間に、平成 29 年度事業（第 1 回の 4 月 23 日、第 2 回、第 3 回の企画骨格）に係る準備や検討も併せて実施した。永山地域の豊富な医療人材資源に着眼した本取組は、核となる医療専門家グループの他、地区市民委員会の賛成、また、健康啓発等では活動の目的が同じ、類似している包括支援センター、永山地域の福祉施設で構成されている永山ケアネットワーク、加えて、地域毎に地域保健活動を行っている市保健所の参画も得て、初期の活動体制としては理想的なものになれたと感じている。まずは、永山地域を中心とした取組開始であるけれども、将来的には、旭川市自体が医療機関の豊富な街であることから、他地域においても、医療機関間の連絡・連携の体制構築が進み、市保健所など、行政目的にも合致しながら、全市的に展開が波及されていくことを期待する。</p>